

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月16日

協議会名: 岡崎市交通政策会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費用庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス株 額田支所市民病院線	額田支所前～市民病院	前回の第三者評価委員会において、「利用者数が伸び悩む中山間部において、効率・効果的な路線再編や利用促進の推進を期待する」と意見をいただき、利用促進に取り組んだ。 ・市内イベントにおいて額田地域の魅力紹介やバス路線を周知したほか、公共交通マップを活用したマイ時刻表サポーターブースを設け、利用促進に努めた。 ・地域住民へ他路線からの乗継情報の周知を行った。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数7,075人に対し、実績利用者数は5,750人であり、達成することができなかった。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.23%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができなかった。 【要因】 運行範囲が複数学区にわたっており、額田地域以外への周知不足のほか、定期的な利用者の減少が原因と考えられる。	・利用状況等の現状分析を行い、地域住民や運行事業者等と連携し、交通モードの転換を含めた路線の在り方について協議をすすめる。 ・上記と同時に、額田地域生活交通協議会を中心として、額田地域の住民へ周知を図るか、額田地域以外へも利用状況等を情報提供するとともに、地域住民とともにバス利用状況等のチラシの回収や、余舎を行い地域の要望等を聞きとり、利用促進を図っていく。
豊栄交通㈱ 下山地区線A	桃ヶ久保～岡崎げんき館前	前回の第三者評価委員会において、「利用者数が伸び悩む中山間部において、効率・効果的な路線再編や利用促進の推進を期待する」と意見をいただき、地域協議会を主体として利用促進等に取り組んだ。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数4,905人に対し、実績利用者数は3,378人であり、達成することができなかった。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率3.24%に対し、実績利用率は1.64%であり、達成することができなかった。 【要因】 高校生の通学利用者の減少のほか、定期的に利用していた高齢者が利用できなくなったことが要因と考えられる。	・利用状況等の現状分析を行い、地域住民や運行事業者等と連携し、交通モードの転換を含めた路線の在り方について協議をすすめる。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・老人クラブの活動で市街地へ行く際にバスを活用する。 ・バスと自転車を乗り継いで高校生が通学しやすいよう、岡崎げんき館前バス停近くに駐輪場を整備したことなどについて、情報発信に努める。 ・夏休み期間中に、小学生にスタンプカードを配付し、プール開放日や放課後事業教室にバスを利用した場合、運賃の一部をPTA利用できなかったことが要因と考えられる。 ・バス利用状況等のチラシを回収。 ・停留所がより目につきやすくなるように、停留所の更新を行う。
豊栄交通㈱ 下山地区線B	北部診療所～岡崎げんき館前	・老人クラブでコミュニティ交通を活用し、市街地等での活動を実施している。 ・地域貢献活動のため地元企業等による協賛金制度を導入している。 ・新たに障がい者割引制度を導入し、利用促進を図った。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数779人に対し、実績利用者数は779人であり、達成することができた。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.30%に対し、実績利用率は0.42%であり、達成することができた。 【要因】 若い世代が流出し、沿線人口が減少したが、主に利用している高齢者が継続して利用していることが要因と考えられる。	・利用状況等の現状分析を行い、地域住民や運行事業者等と連携し、交通モードの転換を含めた路線の在り方について協議をすすめる。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・高齢者定期券購入費の1割を地域の社会教育委員会が助成する取組を継続して行う。 ・運行内容のチラシ及び利用状況やお得なバスの使い方等のチラシを地域住民に配付し、周知していく。
㈱西三交通 形埜地区線 (南大須・須登ルート)	北部診療所～須淵橋～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、「利用者数が伸び悩む中山間部において、効率・効果的な路線再編や利用促進の推進を期待する」と意見をいただき、非効率的な便の削減等、路線の見直しを行った。また、地域協議会を主体として利用促進等に取り組んだ。	A 事業は計画通り実施された。	A 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数779人に対し、実績利用者数は779人であり、達成することができた。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.30%に対し、実績利用率は0.42%であり、達成することができた。 【要因】 若い世代が流出し、沿線人口が減少したが、主に利用している高齢者が継続して利用していることが要因と考えられる。	・見直しをした運行内容についてしっかりと確認し、効率・効果的な路線となっているか検討を図る。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。
㈱西三交通 形埜地区線 (切山・小久田・毛呂・井沢ルート)	北部診療所～切山横手辻～北部診療所	・運行日を集約し、路線の見直しを図った。 ・高齢者定期券購入費の1割を地域の社会教育委員会が助成する取組を継続して行い、利用促進を図った。 ・新たに障がい者割引制度を導入し、利用促進を図った。 ・新たにフリー乗降区間を設け、利便性の向上を図った。	A 事業は計画通り実施された。	A 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数779人に対し、実績利用者数は779人であり、達成することができた。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.30%に対し、実績利用率は0.42%であり、達成することができた。 【要因】 若い世代が流出し、沿線人口が減少したが、主に利用している高齢者が継続して利用していることが要因と考えられる。	・見直しをした運行内容についてしっかりと確認し、効率・効果的な路線となっているか検討を図る。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 ・地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。
岡東運輸㈱ 宮崎地区線(大雨ルート)	宮崎診療所～高雲寺～宮崎診療所	前回の第三者評価委員会において、「利用者数が伸び悩む中山間部において、効率・効果的な路線再編や利用促進の推進を期待する」と意見をいただき、非効率的な便の削減等、路線の見直しを行った。また、地域協議会を主体として利用促進等に取り組んだ。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の利用者数は、目標利用者数410人に対し、実績利用者数は368人であり、達成することができなかった。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.29%に対し、実績利用率は0.54%であり、達成することができた。 【要因】 定期的にご利用している高齢者が利用できなくなったことに加え、新規利用者を獲得できなかったことが、利用者数未達成の要因と考えられる。	・見直しをした運行内容についてしっかりと確認し、効率・効果的な路線となっているか検討を図る。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 ・地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。
岡東運輸㈱ 宮崎地区線(千方町ルート)	宮崎診療所～木下公民館～宮崎学区市民ホーム前	・運行ルート、ダイヤ等の見直しを図った。 ・新たに障がい者割引制度を導入し、利用促進を図った。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数442人に対し、実績利用者数は434人であり、達成することができなかった。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.09%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができた。 【要因】 新規利用者の獲得ができなかったことが利用者数未達成の要因と考えられる。	・見直しをした運行内容についてしっかりと確認し、効率・効果的な路線となっているか検討を図る。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 ・地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。 ・地域組織にて、運賃補助等について検討し、利用促進を図る。
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (鳥川ルート)	市道～バスノット～星野クリニック	前回の第三者評価委員会において、「利用者数が伸び悩む中山間部において、効率・効果的な路線再編や利用促進の推進を期待する」と意見をいただき、非効率的な便の削減等、路線の見直しを行った。また、地域協議会を主体として利用促進等に取り組んだ。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数442人に対し、実績利用者数は434人であり、達成することができなかった。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.09%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができた。 【要因】 新規利用者の獲得ができなかったことが利用者数未達成の要因と考えられる。	・見直しをした運行内容についてしっかりと確認し、効率・効果的な路線となっているか検討を図る。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 ・地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。 ・地域組織にて、運賃補助等について検討し、利用促進を図る。
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (夏山ルート)	額田支所前～平針～星野クリニック	・運行日の集約、運行ダイヤの見直しを図った。 ・新たに障がい者割引制度を導入し、利用促進を図った。 ・新たにフリー乗降区間を設け、利便性の向上を図った。	A 事業は計画通り実施された。	B 【利用者数】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用者数442人に対し、実績利用者数は434人であり、達成することができなかった。 【利用率】 令和元年度(H30.10～R01.9)の目標利用率0.09%に対し、実績利用率は0.14%であり、達成することができた。 【要因】 新規利用者の獲得ができなかったことが利用者数未達成の要因と考えられる。	・見直しをした運行内容についてしっかりと確認し、効率・効果的な路線となっているか検討を図る。 ・額田地域生活交通協議会を中心として、引き続き利用促進を図る。 ・額田コミュニティバスの利用状況等をまとめたチラシの配布 ・地区のイベントなど住民が集まる機会を捉え、バス利用の啓発や利用案内を行う。 ・地域組織にて、運賃補助等について検討し、利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月16日

協議会名:	岡崎市交通政策会議
-------	-----------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善費国庫補助金
----------	------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市では、まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの構築等、持続可能な公共交通網を確保するため、公共交通施策の目標を次のとおり設定した。</p> <p>【公共交通施策の目標】</p> <ol style="list-style-type: none">1 少子高齢化の進展に対応した誰でも使いやすい公共交通の整備2 地域のニーズにあった利便性の高い公共交通の整備3 まちづくり施策との連携によるまちの魅力を高める公共交通の整備4 地域のコミュニティの活性化や交流を促進する公共交通の整備5 市民の意識変容による公共交通利用の促進
-----------------------------	---